



# かどや通信

第29号

発行日：平成30年11月

発行行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

## 蔵に魅せられ朗読会

### 三重TVの人気キャスターが熱演

三重テレビの「とっつてもワクドキ」のキャスター（月曜水曜担当）稲葉美さんによる朗読会が十月十四日にかどやで開催された。

「朗読女子LUCE（ルーチエリ）ディング公演 江戸川乱歩『人でなしの恋』と題し、鳥羽で暮らしたことのある江戸川乱歩の短編ホラー小説が取り上げられた。

「人でなしの恋」は、大正十五年（1926年）に発表された作品で、当初は読者や編集者にもあまり評価されなかったが、乱歩自身のお気に入りの作品の一つだそう。女性の一人語りによる美しい文体と鮮烈な結末で、平成七年（1995年）には映画化もされ、現在では高い人気を得ている。

主人公の京子を演じた稲葉さんは、大正時代を思わせる古風な着物姿で登場。初々しい新妻が、



引き込んだ。

稲葉さんが代表を務める「朗読女子LUCE」は、「美しい日本語を魂込めて伝えたい、心に届く素敵なストーリーを朗読する大人のための読み聞かせの会」をめざして、アフターサーやテレビポーターが中心となって結成され、平成二十五年（2013年）から活動を開始。年間数回、東海地方を中心に朗読会が行われている。

LUCEは伊勢市の河崎商人館や賓日館でも公演しているが、今回かどやが会場に選ばれたのは、昨年稲葉さんの知人である高瀬洋さんの作品展の見学でかどやを訪れた際、かどやの蔵に魅力を感じ



夜な夜な蔵で一時を過ごす夫の不審な行動を通して変化していく心の様を細やかに表現し、観客を乱歩の世界に

引き込んだ。

じ、蔵が舞台の「人でなしの恋」を演じたいと強く思ったからだそう。

今回は、午後一時と午後四時から二回公演で、公演後にはアフタートークも行われ、日本ソムリエ協会認定のワインエキスパートの資格を持つ稲葉さんはお薦めのワインも持参し、稲葉さんを囲んでの会話は大いに盛り上がった。

朗読には、スタッフとしてプロの照明さんと音声さんも参加しており、これぞプロという素晴らしい演出で、稲葉さんの魅力が存分に引き出されていた。参加者からは「素晴らしいかった！」「鳥羽でこんなに素敵な公演が見られるとは！」と大絶賛のコメントが多数寄せられた。

また、アフタートークでの気さくでさりげない気配りも好評で、参加者は「楽しかったわ」「いい時間が過ごせました」と話してくれた。



## 夕暮れのなかまちマーケット大盛況 時間延長で、イベント山盛り!

鳥羽大庄屋かどやが国の登録有形文化財に指定されたのを契機に、鳥羽三丁目から四丁目の商店等がかつての賑わいを取り戻そうとこの界隈をナカマチと名付け、鳥羽なかまち会を結成。年に数回、なかまちマーケットを開催している。

これまで開催時間は午前十時から午後三時だったが、十一月十一日には「なかまちサンセット&竹あかりバル」と題して、午後三時から八時までに時間を変更。海の博物館でも好評だった竹あかりをなかまあのメンバーが制作し、夕暮れのなかまちをやさしい光で包んだ。

かどやもこれに合わせて開館時間を午後八時まで延長して二つのコンサートを実施。さらに、自家製の五平餅等の販売も行い、大忙しの一日となった。

昨年と一昨年の十一月は、ウクレシ工房アンセスターを主宰する坂井祖さんが岐阜県から自作のウクレシを持参し、ジャズをメインにしたコンサートを行っていたが、今年は十一月十日と十一日に友人のギ



ター製作者を伴い、ギターとウクレシの展示会を実施した。参加

者は予想より少なかったが、十日には桑名からアンセスターのウクレシを抱えて坂井さんに会いにきた青年が、坂井さんとジャムセッションを行う等、音楽好きにはたまらない素敵な時間が流れた。

かどやもこの展示会を盛り上げようと、十一日午後一時半からはウクレシを中心とした風下がりコンサートを行った。



まず、たった二人でマーチングバンドの灯を守り続けている鳥羽マーチングスポーツ少年団の演奏で始まり、ウクレシとギターの編成でかどやゼンザーズとシッポースが続き、最後に伊勢市等

も活躍しているウクレシシスターズの四人が素敵な歌とウクレシ演奏を届けてくれた。

なかまちマーケットがスタートする午後三時から、かどや前で自家製の五平餅やたこ飯、栗ご飯、さつまいもケーキ、「ロケット」等を販売したところ、竹あかりが点灯する前に全て完売する盛況ぶりだった。

今回のマーケットのメインイベントは、西念寺の境内と門前のせと町に並べられた多数の竹あかりである。西念寺の午後五時の鐘の音と同時に竹あかりが点灯されると、普段は日が暮れるとほとんど人通りがなくなるこの界隈が大勢の人で賑った。かどや前には竹あかりと燈籠が並び、温かな光が揺らめく中で、当日二番目のコンサート

のコンサートのジャズライブが始まった。MIN AMIさんのパワフルでハ



スキーな歌声と、県外でも演奏活動を行っているキーボードの間島さんとベースの桜井さんによる本格的なジャズ演奏に来場者は大満足。館内だけでなく外に漏れた音も竹あかりとマッチして、なかまち界隈は素敵な雰囲気にも包まれた。



九月九日のなかまちマーケットは「フォークで残暑をぶっ飛ばせ」と題して、松阪や伊勢・志摩で活動しているフォークバンドの「愛風」と「A U O U A(あわ)」が楽しい演奏を届けてくれた。

ここでもオーブニングには鳥羽マーチングスポーツ少年団の二人が登場し、参加者から熱い声援の拍手が送られた。





## 力作の展示が続く!

かどやでは、毎月様々な分野の作品を展示している。十月と十一月も絵画等の力作が次々と展示された。

### 《伊勢高卒業生による三人展》

県立伊勢高校の卒業生三人が「海」をテーマに、パッチワークと絵画、書の展示を十月六日から二十九日に行った。

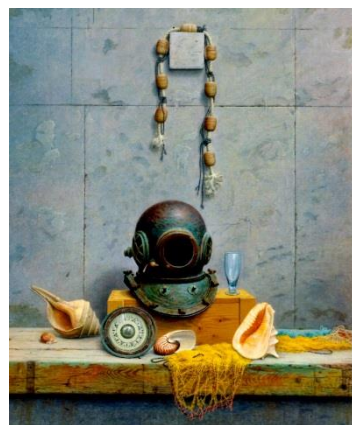
パッチワーク教室を主宰する飯田久美子さんは、平成二十七年と今年一月にもかどやで作品展を行っている。今回は和蛸を散りばめたコ



ニークな作品や、朝日に輝く夫婦岩を描いたもの等十五点を出展した。

日展に

十四回の入選歴を持つ元高校教諭の竹内恵さんは、高校時代は美術部に所属し、教諭時代も美術部の顧問を務めていたそうだ。今回は、貝な



2016年の日展入選作品

どの静物画や波切の灯台や石鏡の海岸を描いた風景画など、絵画十二点を展示した。昨年の日展受賞作「海の韻き」は、海の博物館に展示されていた潜水帽や漁網、浮きのピン玉を描いた百号の大作で、精巧な筆遣いが見学者の足を釘づけにしていた。

書道教室を主宰する大石穂苑さんは高校時代から書道部に在籍しており、日展の入選歴もある。平成二十八年にはかどやで作品展を実施しているが、今回は三人展のためにしたためた書四点を出品した。

三人の卒業年次は異なるが、同窓会で共通の友人を介して知り合い、今回の三人展が実現した。

同高の卒業生はもちろん、それぞれの分野に関心のある人たちが見学に訪れ、三人の力作に見入っていた。

### 《CGで北欧を描く》

十一月一日から二十六日までは高瀬洋さんの絵画展「幸せの国々」北欧を描く」が開催された。

高瀬さんは昨年十一月にシヤールペンシルで描いたペットの絵をかどやで展示し好評を博した。しかし今回は作風をがらりと変え、CG（コンピュータグラフィックス）を駆使した新たな手法で描いた意欲作が並び。

もともと北欧のデザインが好きだった高瀬さんは、七年前にペンマークやスウェーデンなど北欧諸国を視察するチャンスがあり、その時撮りためた写真を元に、今回出展した作品を仕上げたそうだ。

コペンハーゲンの町並みやデンマークを代表する建築家アルネ・ヤコブセンが設計した海岸沿いの集合住宅、水上バスなどが、細やかに丹念に描かれている。

また、アンデルセンの童話にも登場するコペンハーゲンの繁華街ストロイエの町並みをラウンドタワーから見下ろした作品は、大きく拡大されたものも準備されている。現地に行った気分で作品の前で写真



を撮る人や、コペンハーゲンのカラフルな町並みの絵の前で「北欧に行きたくなった」と長くたたずむ人もいた。

高瀬さんは「北欧の国々の印象は、美しく豊かで幸せに満ちていますが、今回の絵はブルーを基調としていますが、温かみが出せるよう工夫しました」。印刷用紙も、柔らかく優しい粗面が特長の伊勢和紙（大豊

和紙工業）を使用するなど、作品の隅々にまで細やかな配慮が施されていた。



カラフルな建物が並ぶコペンハーゲンの人気スポット・ニュータウン

## 知波々さんと笑った！ かどや寄席

かどや寄席「知波々さんと笑って福を呼ぼう！」が十月二十七日に行われた。

かどや寄席は、平成二十六年二月に林家染弥さん(現・林家菊丸)の独演会に始まり、平成二十八年十月には社会人落語家の切磋亭琢磨さんと弟子の切磋亭幸村さんの公演が催され、今回が三回目だ。

天満屋知波々さんは、大坂天満繁昌亭の「落語家入門講座」の卒業生で結成された「素人寄席・天満天神の会」のメンバーで、愛知支部長として主に東海地区で活動している。今回はまず、落語家入門講座に通うようになったきっかけや、愛知支部長として活動するまでの状況などをおもしろおかしく紹介した後、十八番の「動物園」が語られ、会場は終始笑いに包まれた。

その後、観客を巻き込んだ落語体験コーナーや、



脳トレ効果もある駄洒落クイズで会場と一体となり、最後に相撲甚句「鶴と亀」と、その替え歌として知波々さんが作った「シ

ニア人生訓」を皆で歌い、笑顔が広がったところでお開きとなった。

知波々さんの寄席は、話を聞くだけでなく、観客を交えて落語を楽しめる構成になっており、「笑つ門には福来る！」の言葉通り、笑顔という福に満ちたひと時となった。

## 《鳥羽高生、かどやを卒業！》

前号で紹介した県立鳥羽高校三年の二人の社会体験実習が十一月九日に終了した。

実習ではかどやの館内案内や鳥羽の歴史の勉強を中心に、掃除はもちろん発送物の折込等細かな作業も幅広く行ってもらった。最終日に実習に関するアンケートを行ったところ、「鳥羽の歴史を知ることが出来、案内練習を通して人前で話すことの難しさを経験できたことが印象深かった」と答えてくれた。

受け入れ側として、少しでも実社会で役立つ経験をしてもらいたいと、常に考えていたが、その思いが通じたようで、スタッフ一同ホッと



フィールドワークで鳥羽湾を望む

した。帰り際に「お世話になりました」の言葉を聞いた時は、卒業生を見送る先生のような気分になり「がんばれよ！」と心の中でエールを贈った。

◆◆貸部屋の案内◆◆  
かどやを有効にご利用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご利用ください。詳細は、かどやへ。  
電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

## かどや保存会 平成30年度会員募集中！

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで本年度は11月1日現在で332名の方にご登録いただきました。これからも一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、更にこの輪を広げたいと思います。ご登録がまだの方は是非ご登録・ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

30年度(H30/4/1～H31/3/31)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751  
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713